

～株式会社日本海洋生物

松井 隆明

🐟 いままでのこと

私が入社した平成7年の春は、会社設立からすでに22年が経過していました。当時世間ではバブル崩壊後の不況が継続しており、夏を過ぎても半数を超える女性新卒者の就職先が決まらないという新聞記事を目にした記憶があります。進学を希望していた私は就職活動をしないうまま過ごしており、希望進学先の教授から、実は退職のため新規学生の受け入れができないと回答を頂いたのが丁度この頃でした。慌てて就職活動を開始し、しかし就職するからには、水域環境を扱い、生物の調査分析を自前でできる会社という点を条件にとり着いたのが今の会社でした。入社後の印象は、大学の研究室に似た感じがあり、忙しいながらもやりがいを持って過ごしていました。

水域のあらゆる生物の分類や生態学的な知見は、会社設立当初からの積み上げがあり、アセスはもちろん様々な研究者の要望にも応えてきたことで、社会の中で存在を構築してきたと思います。もう一つの特徴は、外洋域の特に深海を含めた環境データの取得や分析・解析も民間企業としては古くから関わってきたことでしょうか。水のある所では、河川の源流域から深海に至るまで全てを網羅するというのがセールスポイントでもあります。

🐟 近年のこと

近年の生物分析は、形態による分類だけでなく、遺伝子を利用した方法も頻繁に用いられるようになりました。遺伝子解析技術の発展は目覚ましく、単に分類するだけでなく、調査対象とする場所の水を採取し解析することで、そこにどのような生物が生息するかというような、調査の省力化につながる使い方にも用いられます。また、開発の始まりは意外と古いようですが、生物画像からITを活用しコンピューターが生物の種を自動判別する方法も

構築されつつあります。それぞれの方法には一長一短があり、まだまだ古典的方法であっても頼っていかなくてはなりません。

私が入社してから過ごした27年間のなかで、水界生物を中心とした環境調査・分析・解析を骨子とする会社の大枠はさほど変わっていないように感じます。むしろ大きく変わってきたのは地球環境の方であり、温暖化に代表される変化は一人一人が肌身をもって感じられる事象でしょう。災害の甚大化などはもはや、悠長なことを言っている場合ではなくなりました。環境に関わるキーワードが頻繁に告げられるようになり、人間が環境に与えるインパクトを最小限にする試みが今まさに地球規模で取り組まれている最中です。こうした中で環境の現状や変化を的確に捉え、改善に結びつけるための取り組みはますます重要となっていくことでしょう。

🐟 これからに向けて

かつては自ら関わった業務でいかに的確なサンプリングを行い、サンプルをデータ化し、データが示す特徴を捉え伝えるかということに没頭していた日々でした。しかし、他の機関への出向や所属部署の変更を経験ししばらく経ったところに社内を見渡すと、様々な場で学び、多様化してきたそれぞれの業務に携わる若い人たちが増えたことに気づきます。若い社員がそれぞれのやりがいを見つけ、創意工夫を凝らし、大変な仕事であっても、自らの体験や発見を生きいきと語ってくれる場面に接すると、何とも頼もしく、うれしい気分にはさせてくれます。こうした社員達がいればこれから先も世の中で必要とされる会社であっていけることでしょう。

この度は会社設立50周年を迎える運びとなり心よりお祝い申し上げます。これからも将来の社員が次の50年後を無事に迎えられるための礎をみんなで作っていきたいと思います。

研究所のいままでとこれから～

取締役：岡 靖一郎

この度は、株式会社 日本海洋生物研究所の設立 50周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。諸先輩方多数おられますところ誠に僭越ではございますが、取締役の一人としてご祝辞を申し上げます。

この原稿を書いている時は2022年10月上旬で、円相場は1ドルが145円を超え、ロシアのウクライナ侵攻は泥沼化し、世間では物価高が叫ばれるなど、社会情勢が落ち着かないように思えます。私が初めて当社と関わったのは、40年以上前でしょうか。もちろん仕事などではなく、社内イベントという形でした。その当時、幼少時の記憶で曖昧な部分もあるかもしれませんが、年末は本社前の駐車場で餅つきをしていました。また、正月は当時の社長宅にお年賀で集まっていました。それから、数十年、紆余曲折ありましたが、気が付いたら当社で働いていました。ちょうど2002年の1月上旬ごろでした。まだ、駅のホームでも喫煙可、新幹線でも喫煙車両があるような時代でした。入社後は10数年ほど、現地調査と分析を主とする業務に携わり、その後は現在まで営業と経営管理に携わっています。

現地調査は作業員から始め、作業内容を習得するに従い、少しずつ作業が増えていき、何年か経つと、一つの現場を任せられるようになります。現場では先輩方によく助けられた思い出があります。分析業務では海域ベントス分析に携わりました。分析業務は、ベテラン分析者に師事し分析を覚えていくのですが、最初は前処理、ソーティングと進めていき、ある程度慣れてから、顕鏡に入ります。その過程は基本的に、今も昔も同じです。私もベテラン分析者に師事し、特に胃内容物分析のような検体の損壊が激しい分析において、その卓越した能力が発揮されるよう

な方でした。分析に対して非常に厳しかった方でした。数年後に今度は甲殻類について非常に詳しい分析者に師事しました。特に、ヨコエビ類についての知見は深かった方です。各種分析を二人三脚で上手く進めていった思い出があります。なお、当社に在籍している分析者は、皆卓越した能力があります。分析業務と現場は今と昔では電子機器類こそ進化しましたが、その他は基本同じであり、良くも悪くもそこまで変わっていないと思います。全ての業務について、協力体制をしっかりと構築し、進めていくのは当社の強みでもあると思います。

私が入社してから今までの間、the global financial crisis（リーマンショック）や東日本大震災など、社会情勢の混乱がありました。もちろん当社も影響を受けましたが、当社は常に高い技術力にこだわり続け、信用と信頼を最重視し、堅実経営を続けてきたことで、大きな社会情勢の変化にも負けずに会社を続けられたことと思います。企業生存率という言葉がありますが、50年続く会社は1%に満たないというデータがあります。そういったデータからみると、50年間にわたって存続していくのは本当に大変なことです。さらに50年間という長い期間で、多くの社員と家族の生活を守り続けていることは並大抵なことではありません。私を含めた現役世代は、当社が50年間で積み重ねた信用と信頼、高い技術力をこれからも維持し、今まで以上に当社を盛り上げるよう心掛け、これからは歩んでいきたいと思っています。

末筆ながら、今後とも株式会社 日本海洋生物研究所を変わらぬご愛顧とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

Memory of the 50th anniversary